

現代首里方言訳『沖繩対話』(3)

—「第三章 農之部」—

仲原穰・仲里政子・新垣恒成・国吉朝政

はじめに

本稿は仲原・比嘉・仲里・新垣・国吉(2012)、仲原・比嘉・仲里・新垣・国吉(2013)(以下、仲原他 2012、仲原他 2013と称する)の続編であり、明治13(1880)年に発行された『沖繩対話』に記載された琉球語と現代首里方言の比較のための基礎的研究である。今回は「第三章 農之部」を取り上げた²。

『沖繩対話』は日本標準語の習得のための補助として琉球語が記されている。しかし、本文の脇に片仮名で振られた琉球語の出自については『沖繩対話』に記されていない。しかし、糖業研究会出版部(1916:6)のなかで「首里語であつて、護得久代議士の父故護得久按司朝常氏等」と説明されていることや、これまでの仲原他(2012)(2013)で示したように現代首里方言との共通点も多いことから『沖繩対話』の標準語に併記された琉球語は首里方言であろう³。ただし、その首里方言が国立国語研究所(1963:19)で挙げられている「三つの階級」のうち、どの階級のことばなのかが問題である。上に挙げた陶業研究会(1916)の記述や現代の首里方言では使用されていない語や表現が一部にみられることなどから、「ウドゥントゥンチ」(王家と関わりの深い家柄の人々)のことばである可能性があるのだが、詳しくは稿を改めて議論していきたい。

今回取り上げた「現代首里方言」は、旧士族階級や旧平民階級のことばである。両者の区別が全くないわけではないのだが、分けて示すほどの「差」ではないため、本稿では「現代首里方言訳」としてまとめて掲載する。

なお、現代首里方言で他の表現がある際は「備考」に記述した。また、話者によって単語や表現が異なる場合にも、その差異を「備考」で示した⁴。

調査に用いたのは『琉球語便覧』に収載の『沖繩対話』である。当初は復刻版『沖繩対話』を用いていた。しかし、『琉球語便覧』収載の『沖繩対話』には、「伊波普猷氏に乞うて別に之を羅馬字で写して貰つた」(『琉球語便覧』凡例。旧字

は新字に直して引用した。また、「歴史的仮名遣い」も「現代仮名遣い」に改めた。「ローマ字表記」も併記されている。そこで底本を『琉球語便覧』収載のものに切り替えた。それに伴い、本文中の片仮名表記に疑問がある際に併記されているローマ字表記が大いに参考になった。

凡 例

1. 調査で使用した『琉球語便覧』の本文(和文)、本文(片仮名)も表に取り入れ、明治期の首里方言と現在(平成)の首里方言を対照できるようにした。
2. 『琉球語便覧』本文の和文表記は漢字片仮名交じり文で書かれている。この文は「歴史的仮名遣い」と「旧字体」で書かれているが、本稿では「現代仮名遣い」と「新字体」に改めた。なお、漢字片仮名交じり文は、読みやすさを考慮して漢字平仮名交じり文に改めた。このほか、本文の「和文」表記に際し、和文の漢字に振られたルビを漢字の後の()内に示す、踊り字を本字に置き換える、分かち書きされていない箇所空白を入れるなどの処置を行った。
3. 『琉球語便覧』に標準語に併記された首里方言の記述には片仮名が使用されており、補助記号「・」(圏点)が記されている。しかし、圏点は非常に小さくて見づらく、読み手が読み誤りやすい。そのため本稿では圏点を使用せず、片仮名表記で記した(「テ」は「ティ」、「デ」は「ディ」、「ト」は「トゥ」、「ド」は「ドウ」、「ヒ」は「フィ」、「ヘ」は「フェ」、「ホ」は「フォ」、「シ」は「スイ」、「ツ」 「チ」は「ズィ」、「ツ」は「ツイ」、「イ」は「イィ」、「ウ」は「ウウ」と表記する〔『琉球語便覧』のローマ字で確認済み)。このほか、長音を「ー」に統一し、「子」は「ネ」と表記した。
4. 『琉球語便覧』のローマ字表記は紙幅の都合により割愛した。
5. 現代首里方言の記述は、広く一般に利用してもらえるように音声的仮名表記にした。片仮名表記は西岡・仲原(2006[2000]:192-193)の表記を採用したが、句読点に関しては現代日本語に準じて補って示した。ちなみに、首里方言には特殊な発音がいくつかみられるため、以下のように特殊な片仮名で表記する。

「ッワ」「ッヤ」「ッン」「ッウイ」「ッウエ」「ウウ」「イィ」「ン」
/?wa / ?ja/ ?N/ ?wi / ?we/ /u/ /i/ /N/

6. 会話文は、一つ一つの会話を一つの枠内に入れた。会話文の区別については『沖縄対話』を参照した。ただし、『沖縄対話』では話者を○、○○で区別しているが、いくつか適合しない部分もあった。そこで本稿では、同一人物が発した会話は同じセルに入れた。なお、会話文には各回ごとに通し番号(No)を付した。

■第三章 農之部 第一回

No	頁	本文(和文)	『沖縄対話』本文(沖縄語)
1	p.30	田畑(たはた)の 作(つく)り物(もの)が 見事(みごと)で ござりますが 当年(このとし)は 豊作(ほうさく)で ござりましょう。	ターハタキヌ ムヅクイヌ ヒルマシヤ ヤビーシガ クンドー ユガフー シュラ ハヅィ ヤヤビーサー。
2	p.30	左様(さやう)でござります 先(ま)ず 只今(ただいま)の 所(ところ)では 此上(こゝ)ない 出来方(できかた)で ござります。	アンデービル マヅィ ナマヌ グトゥ ドウン アレー クヌ グトール ディケー ネーヤビラン。
3	p.30	貴方(あなた)の 作り物(つくりもの)では 何(なに)が一番(いちばん)上(う)出来(でき)でござりますか。	ウンジュヌ ムヅクイヌ ウチネーヌーヌ イチバン ジョーディキ ショーヤビーガ。
4	p.30	私の物(もの)では 麦(むぎ)が 十分(じゅうぶん)の 出来(でき)と 思(おも)います。	ワー ムヌニ シェームチヌ イツツイン ディキンディ ウムトーヤビーン。
5	p.30	蕃薯(いも)は 如何(いか)でございます。	ンモー チャーガ ヤヤビーラ。
6	p.30 -31	蕃薯(いも)も 先(ま)ず可(た)りなりの 出来(でき)で 只今(ただいま)の 景気(けいき)では 大概(たいてい) 根(ね)いりもよさそうに 見(み)えます。	ンムン マヅィ ユタシヤヤビーン ナマヌ カタチシェー テーゲー ユーイソーニ アヤビーン。
7	p.31	田(いり)は場所(ばしょ)により 水(みづ)が 少(すく)し 不足(ふそく)の様(よう)に見(み)受(う)めますが 米(こめ)の 出来高(できだか)は如何(いか)でござりましょう。	ターヤ トウクル シデーネー ミヅイヌ ウフエー フスクヌ グトーヤビーシガ クミヌ ンジダカー チャーガ ヤヤビーラーヤ。
8	p.31	左様(さやう)でござります 例(れい)えい年(とし)位の 収穫(とりのいれ)はありましよう。	アンデービル リーニンヌ シャコー トウユラ ハヅィ ヤヤビーン。
9	p.31	野菜(やさい)の類(るい)は 何(なに)を多分(たぶん)に お作(つく)りで ござりますか。	ヤセーヌ ルイネーヌー ウフオーク ウツクイ ミショーチュー ヤビーガ。

■第三章 農之部 第一回

No	現代首里方言	備考欄
1	ターハタキヌ <u>*ムジユクイヌ</u> フィルマサ <u>イビーシガ</u> ミグトゥニ デイキトーイ ビー クトゥ クンドー ユガフー ナイラ ハジ ヤイビーッサー。	*「ムジユクイエー ミグトゥニ デイキトーイ ビークトゥ」でもよい。なお、70代話者の 国吉氏は「ムジユクイヌ ミグトゥニ デ イキトーイビークトゥ」が良いという。
2	<u>*アンヤイビーン</u> マジ ナマヌ グトゥ ドゥンアレー クングトゥール ディケー ネ ーヤビラン。	*相手の会話への同意を表すので、「ア ンヤイビーサ」でもよい。
3	ウンジュヌ ムジユクイヌ ウチネー ヌー ヌ イチバン ジョーディキ ソーイー ガ。	
4	<u>ワームヌトウツシエー</u> ムジヌ イッチン ディキンディ ウムトーイビーン。	*「ワームヌトウツシエー」でもよい。
5	ツンモー チャーガ ヤイビーラ。	
6	<u>*ツンムン</u> マジ ウーカタ ディキティ ナマヌ カタチツシエー テーゲー ユー イッチョーンディ ウムトーイビーン。	*新垣氏は芋の発音は芋葛の発音で判 断するため、「カンダヌ ユカトーイビー クトゥ」がよいとする。
7	ターヤ バスニ ユッテー ミジヌ <u>*イフェー</u> フスクヌ グトーイビーシガ クミヌ ディキダカー チャーガ ヤイビー ラヤー。	*仲里氏と新垣氏は「イフェー」だが、国 吉氏は「ウフェー」である(以下同じ)。本 稿では前者の発音で示しておく。
8	アンヤイビーン <u>*メーニンヌ</u> サコー トウ イラ ハジ ヤイビーン。	*本文(和文)では「例年」、本文(沖縄語) では「リーニン」だが、現代首里方言では 「メーニン」しか使用しない。
9	ヤシエーヌ <u>*レイネー</u> ヌー ウフオーク ウチュクイミソーチェーイビーガ。	*「国吉氏は「イルイル」あるいは「イル カジ」とする。

No	頁	本文(和文)	『沖縄対話』本文(沖縄語)
10	p.31	外(そと)畑へは大根(だいこん)を沢山(たくさん)作りました。	フカヌ ハタキネー デークニ ウフォーク ツクテー ヤビーン。
11	p.31	虫は 付きませぬか。	ムシエー ツイカンガ アヤビーラ。
12	p.31	初めは 少し 付きましたが 此節は 一つも見へませぬ。	ハジメー ウフェー ツイチャーヤビー タシガ ナマー ムル ネーヤビラン。
13	p.31	昨年は 大豆が 満作でありましたが 当年は 如何でござりましょう。	クゾー デーヅィヌ マンサク ヤヤビータスイガ クンドー チャーガ ヤヤビーラー。
14	p.31-32	昨年は 誠に 稀れなる 豊熟(みのり)でござりましたが 当年も 又 余程の 上作でござります。	クゾー デントー マリネー ディキ ヤヤビータスイガ クンドウン マタド ウットウ ジョーサク ヤヤビーン。
15	p.32	甘蔗(さとうきび)は 随分 よく 出来ておりましたが 砂糖の 出来方は 如何でござりましょう。	ウージェー ズイブン ジョーディキ ショーヤビータスイガ サトーヌ ディケー チャー ヤヤビーガヤー。
16	p.32	甘蔗は 非常(ひじょう)の 出来方で 殊に 製糖(せいとう)の比(ころ)に 一層(ひとしお) 念を入れましたが 誠に 上品な 砂糖が出来ました。	ウージェー マリネー ディキ ヤル ウイーニ ビシティ サトー シュル バ シュ イチダンニン イツチャ クトゥ ドウットウ イー サトーヌ ンジトー ヤビーン。
17	p.32	それは 結構でござりました 何(いず)れこれが 沖縄物産の 第一で ござりましょう。	ウレー イー ヤヤビーサー チャーシン クレー ウチナーヌ サンム ツィヌ デーイチ ヤラ ハヅィ デービル。
18	p.32	御尤(ごもつとも)でござります これが年々 よくなりましたら 大総な 利潤に なりましょう。	グムットウン デービル クリガ ドウン メーニン ユタシャイドウンセー テーブンヌ リトゥクニ ナヤビーラ ハヅィ。

No	現代首里方言	備考欄
10	フカヌ ハタキネー デークニ ウフォーク チュクテーイビーン。	
11	ムシエー *チカンガ アイビーラ。	*国吉氏は「チチャビランガヤー」とする。
12	ハジメー イフェー チチョーイビータシ ガ ナマー ムル ネー(イ)ビラン。	*「ネー(イ)ビラン」は通常は「ネービ ラン」だが、「ネーイビラン」でも使用 可能
13	クジョー トーフマーミス デイクトーイ ビータシガ クンドー チャーガ ヤイビーガ。	
14	クジョー フントー マリネー デイキ ヤイビータシガ クドゥン マタ イッペ ー ジョーサク ヤイビーン。	
15	ウウージェー ユー デイクトーイビータシ ガ サーターヌ デイケー チャー ヤイ ビーガヤー。	
16	ウウージェー マリナ デイキ ヤル ウイーニ サータージュクイヌ バス イチダントウ ニン イリヤビタクトウ ドゥットウ イイー サーターヌ ヅンジト ーイビーン。	
17	ウレー イイー クトゥ ヤイビーサ チャ ーシン クレー ウチナーブツサンヌ デ ーイチ ナイル ハジ ヤイビーン。	
18	アンヤイビーサ クリガドゥン メーニン * <u>ディキードゥンシエー</u> テーブヌヌ リトク アギール クトゥンカイ ナイビーラ ハジ。	*「ディキール ムドゥンヤレー」でもよ い。

No	頁	本文(和文)	『沖縄対話』本文(沖縄語)
19	p.32 -33	当土(ここ)の 藍(あい)は 余程 上品で 是も一つの 名(めい)産 と 存じますが 当年の 出来は 如何でござりましょう。	クマヌ エーヤ ドウツトウ ジョーグレ ー ヤティ クリン マタ イー サン ムツンディ ウマーリヤビーシガ クン ドウヌ デイケー チャー ヤヤビーガ ヤー。
20	p.33	左様でござります 是も 随分 上作の 様子で ござります。	アンデービル クリン ズイブン ジョ ーディキヌ ヨースイ ヤヤビーン。

■第三章 農之部 第二回

1	p.33	今日は 好き気度で ござりま す。	チューヤ イー テインチ ヤヤビー サーヤー。
2	p.33	昨日とは 打(うっ)て変(かわ) った 天気になりました。	チヌートー ウチカワティ イー テイ ンチ ナトーヤビーサーヤー。
3	p.33	昨日の 風には 御こまりの 事 も ござりませなんだか。	チヌーヌ カヂウウテー ウスツェー シ ミシェール クトー サーランガ アヤビータラ。
4	p.33	風には 格別(かくべつ)の事もあ りませなんだが 雨には 困りま した。	カヂィ ウウテー アンマディー アヤ ビランタスイガ アミウウテー アミウ テー スツェー シヤビタサー。
5	p.33	貴方の 御近辺(ごきんぺん)は どれ位の水で ござりましたか。	ウンジュナーヌ グチンピノー チャ ヌ シャクヌ ミヅィガ ヤヤビータラ。
6	p.33	近年 稀れなる 洪水(おおみず) で ござりました。	クスグルニツシェー マリネー ウーミ ヅィ ヤヤビータサー。
7	p.34	垣(かき)の花(はな) 辺は 大分 作物(さくもつ)を 荒(あら)した で ござりましょう。	カチヌハナ フィノー テーブン ムヅ クイ ヤンテーラ ハヅィ ヤヤビーサ ー。
8	p.34	左様と見えまして 皆 心配して 居りました。	アンシ ンナ シンパイ ショーヤビー タン。

No	現代首里方言	備考欄
19	クマヌ エーヤ ドウツウ ジョームン ヤティ クリンマタ イー ブッサンディ ウマーリヤビーシガ クンドゥヌ ディケー チャー ヤイビーガ。	
20	アンヤイビーン クリン ユフドウ ジョーデイキヌ ヨーシ ヤイビーン。	

■第三章 農之部 第二回

1	チューヤ イーティンチ ヤイビーッサーヤ。	
2	チヌートー ウチカワティ イーティンチ ナトーイビーサ。	
3	チヌーヌ カジウウテー スックエー シミシエール クトー サーランガ アイビータラ。	
4	カジネー *アンマデー アイビランタシガ アミウウテー スックエー サビタッサー。	*「アンスカー」でもよい。
5	ウンジュナー チケートウナイエー チャヌ アタイヌ ミジガ ヤイビータラ。	
6	*クスグルンシエー マリネー ネーン ウーミジ ヤイビータッサー。	*国吉氏は「クスグルンジェー」または 「クスグルウチー」とする。
7	カチヌハナ フィノー ムジュクイエー ダテーシ ヤンダットーラ ハジ ヤイビーン。	
8	アンシ ンナ シワ ソーイビータン。	

No	頁	本文(和文)	『沖縄対話』本文(沖縄語)
9	p.34	私の 菜園(さいえん)も さっぱり 損(そん)して 仕舞(しまい)ました。	ワッター アタイン ムル ヤンティ ネーヤビランサー。
10	p.34	左様でござりますか それはお 気の毒でござります。	アンヤイビーミ ウレー スツクェーシ ミシユービーサーヤー。
11	p.34	貴方の 御屋敷(やしき)内は 如何でござりました。	ウンジュナーヌ ウヤシチウチェー チャーガ ヤヤビータラ。
12	p.34	私の 前菜(せんざい)は 幸なこ とで 左まで 荒れませなんだ。	ワッター ヤセーヤ フーヌ アティ アンマデーヤンターネーヤビラン。
13	p.34	それは 結構でござります 如何(どう)云物(いうもの)を 重(おも)い におつくりなされますか。	ウレー イイー ヤヤビーサー。ヌー ガ ムトゥナチ ウツクイ ミシヨーチェー ヤビーラ。
14	p.34	茄子(なすび) 冬瓜(とうくわ) などを 多く 作りて居ります。	ナースイビ シブインデーヤ ウフオー ク ツクテー ヤビーン。
15	p.34	葱(ねぎ)は如何でござりますか。	ビラー チャーガ ヤヤビーラ。
16	p.34 -35	葱も随分(ずいぶん) 宜(い)うござり ますゆえ少しづつは作ります。	ビラン ズイブン ユタシャヤビークト ウ ウフィナーヤ ツクテーヤビーン。
17	p.35	刀豆(なたまめ) 裙帯豆(じゅう ろくささげ) などは 御(ご)つくりな されませぬか。	タチワチ フーローンデーヤ ウツク イ ミシヨーチェー ネーンガ アヤビーラ。
18	p.35	野菜の類は 大抵(たいてい) ありま すから 御(ご)入用の節(せつ)は いつでも 御召使(おめしつか)りを 御遣(おつか)わしなされませ。	ヤセーヌ ルイエー イイークル アヤ ビークトウ イリユーヌ バシヨーイツイ ヤラワン ウツィケー ウヤラシ ミシエービリ。
19	p.35	ありがとうござります。	ミフエーデービル。
20	p.35	決(けつ)して 御遠慮(ごえんりよ) には 及びませぬ。	ヌーン グイインリュネー ウユバビラン。

No	現代首里方言	備考欄
9	ワッター アタイン ムル ヤンティ ネー イビランサ。	
10	アンヤイビーミ ウレー スクェー シミ シェービーツサヤー。	
11	ウンジュナー ウヤシチ ウチェー チャ ーガ ヤイビータラ。	
12	ワッター アタイェー フーヌ アティ アン マデー ヤンテー ネービラン。	
13	ウレー イイークトゥ ヤイビーサ ヌーガナ * <u>ムトゥナチ</u> ウチュクイミソー チェーイビーガ。	*国吉氏は「ムトゥダッチ」とする。
14	ナーシビ シブイ ンデーヤ ウフォーク チュクテーイビーン。	
15	ビラー チャーガ ヤイビーガヤー。	
16	ビラン ユフドゥ イッタムンヤイビークトゥ イフィナーヤ チュクテーイビーン。	
17	タチワチ フーロー ンデーヤ チュクミソーチェー ウイビラニ	
18	ヤシェーヌ * <u>ルイエー</u> イイークル アイビークトゥ イリュエーヌ ** <u>バソー</u> *** <u>イチヤラワン</u> ウチケーヤラシミシェー ビリ。	*国吉氏は「イルカジェー」という。 **「トゥチェー」ともいう。 ***「イチャティン」ともいう。
19	ニフェーデービル。	
20	ヌーン グインロー シミシェービンナ。	

■第三章 農之部 第三回

No	頁	本文(和文)	『沖繩対話』本文(沖縄語)
1	p.35	当年は ひどい 霖雨でありましたが 作物の実入りが 定て 悪くござりましょう。	クンドー ドウツトゥ ナガアミ ヤタスイ ガ ムズクイヌ ミーヌ イリカター サダミティ ワッサラハヅィ。
2	p.35	誠に 困った年柄で 麦や 大豆などは すっかり 腐て仕舞ました。	ドウツトゥ スックエーシタ トウシヤツサー ムジンデー マーミンデーヤ ムツウ クサリティネーシ ナトーン。
3	p.36	何などが かなり とれそうで ござりますか。	ヌーンデーヤ トウヤカコー トウラリーギサ ヤビーガヤー。
4	p.36	先ず 蕃書杯は 幾分か 根が入りて おります。	マヅィンムンデー ヤイーブンネー イッチョーラ ハズィ。
5	p.36	綿花は 如何な模様で ござります。	ムミノー チャル ムヨー ヤヤビーガヤー。
6	p.36	大へんな損毛で 最早 此頃は 仕方なく 打捨(うちすて)で居ります。	テーブンナ スンジ ヤティ ナー クヌグロー チャーシナラン ウッチャンギティドウ アル。
7	p.36	それは 如何の訳で ござりますか。	ウレー チャール ワチ ヤヤビーガ。
8	p.36	例年より 少し 増て 種子(たね)を 播(ま)きましたが 残らず 腐て仕舞ました。貴方は 如何でござります。	リーニンヤカ ウフェー ウフク ナチサネー マチャシガ シナ クサリティネシナトーサー ウンジョー チャーガ ヤヤビーラ。
9	p.36	私のは 貴方程には ありませぬが併し 大分の損失で ござりましょう。	ワー ムノー ウンジュナーヌ シヤクマデー アランシガ ヤンドウン テーブンヌ スンジ ヤヤビーラ ハヅィ。
10	p.36	どれだけ 御蒔に なりました。	チャヌシヤコーウマチミシエービタガ
11	p.36	凡 七反余り 播ました。	テーゲー シチタン アマイ マチャビタン。

■第三章 農之部 第三回

No	現代首里方言	備考欄
1	クンドー ユカイ ナガアミ ヤイベータクト ウ ムジユクイヌ ミーヌ イリカター <u>*チツ</u> <u>トウ</u> <u>**ワツサル</u> ハジ ヤイベーン。	*「ユフドウ」でもよい。 **新垣氏は「ワツサイビーラ ハジ」の方がよいという。
2	イッペー スックエーチョール トウシ ヤティ ムジトウカ マーミンデーヤ ムル クサリティネーイビラン。	
3	ヌーンデーヤ <u>*チャヌアタイエー</u> トウラリーギサイビーガ。	
4	マジ ンムンデーヤ イーブンネー イッチョーラ ハジ ヤイベーン。	
5	ムミノー チャール ムヨー ヤイベーガ ヤー。	
6	テーブン ウースン ヤティ ナー クヌグロー チャーン ナラン ウッチャンギテイドウ アイビール。	
7	ウレー チャール ワキ ヤイベーガ。	
8	ナママディヌ トウシヤカ イフエー ウフ ク ナチ サネー マチャビタシガ ムル クサリティ ネーンナトーイビーッサー。 ウンジョー チャーガ ヤイベーラ。	
9	ワームノー ウンジュナーヌ サク マデー アイビラン ヤイベーシガ テーブンヌ スン ヤイベーラ ハジ。	
10	チャヌ サコー マチミシエービタガ。	
11	テーゲー シチタンアマイマチャビタン。	

No	頁	本文(和文)	『沖縄対話』本文(沖縄語)
12	p.36 -37	肥は 何を御やり なされました。	キューヤ ヌー ウイリミ シェービタガ。
13	p.37	例年は 油滓(あぶらかす)計で 相応のとりまえが ありましたが 当年は 其上 種々(いろいろ)の肥を やりました。	リーニノー アンダグーバカーイ シン ソーウーヌ トウイイメー アタスイガ クンドー ウヌウイ イルイルヌ クェー イッタッサー。
14	p.37	貴方の畑は 定て 日当(ひあたり)の宜き場所で ござりましょう。	ウンジュヌ ハタケー チシティ フィーヌ ユー アタユットウクル ヤラ ハヅイデービル。
15	p.37	はい 随分日向(ひあたり)は よくよくございます。	ウー チープン フィーヤ ユー アタヤビーン。
16	p.37	それでは 当年の雨も 格別のいたみはございますまい。	アンドウン ヤレー クンドウヌ アミヤティン アンマディヌ サワイエーネーラン ハヅイ デービル。
17	p.37	貴方の畑は 湿地(しっち)で ござりますか。	ウンジュヌ ハタケー シツイガカイガ ヤヤビーラ。
18	p.37	私の畑は 湿気が多くて 誠に 困ります。	ワッター ハタケー シツイヌ チューサヌ ドウツウ スクェー チョーサー。

■第三章 農之部 第四回

No	頁	本文(和文)	『沖縄対話』本文(沖縄語)
1	p.37 -38	貴方の 畑と 私の 畑とは 地味に 格別の違は あるまいと思いますが 毎年 貴方の 収穫が多い様では ありませぬか。	ウンジュナーヌ ハタキトゥ ワッター ハタキトー チカター ナンツヌ カワイエー アラン インディ ウマーリヤ ビースイガ メーニン ウンジュナー ヤ トウイミヌ ウフサル グトーネーヤ ビランカヤー。

No	現代首里方言	備考欄
12	キューヤ ヌー イリミシェービタガ。	
13	メーニン アブラカスビケージッシン *ソーウーヌ トウイメーヤ アイビータシガ クンドー ウヌウィー イルイルヌ クェー イリヤビタン。	※国吉氏は「ウチャティ」とする。
14	ウンジュナー ハロー サダミティ フィー ヌ ユー アタイツウクル ヤイビーラ ヤー。	※「畑」は現代首里方言では「ハタキ」で なく「ハル」という(以下同じ)。
15	ウー (*イイミシエール トウーイ) フィーヤ ユー アタイビーン。	※()内は本文(和文)にはないが、入 れた方が自然な言い方になる。
16	アンドウンヤレー クンドウヌ アミ ヤティン アンスカマディヌ サシサワ イエー ネーヤピラン ハジ。	
17	ウンジュナー ハロー *シチガカイガ ヤイビーラ。	*「シッタイジー」でもよい。
18	ワッター ハロー *シチヌ チューサヌ イッペー スクウェーチョーイビーン。	*「シチガカイ ナティ」でもよい。

■第三章 農之部 第四回

No	現代首里方言	備考欄
1	ウンジュナートウ ワッター ハルトー ジージカラ ナンジュ カワイエー ネーランディ ウマーリヤビーシガ メーニン ウンジュナー *トウイメーヌ ウフサル グトーイビーンヤー。	*国吉氏は「トウイダカ」という。

No	頁	本文(和文)	『沖縄対話』本文(沖縄語)
2	p.38	左様でございます 少しは 多いかも 知れませぬ。	アンデービル ウフェー ウフサガ アラ シリヤビラン。
3	p.38	肥は何杯をおやりなされますか。	キューヤ ヌーンデーガ ウイリミシェービーラ。
4	p.38	乾鰯(ほしか) 馬糞(ばふん)杯を重(おも)に 用います。	フシカ パフヌンデー ムトゥ ナチ ムチーヤビーン。
5	p.38	それでは 御同様で ございますが 収穫の 不平均(ちがひ)は 如何い 訳でございます。私のは 少し違ませぬと 勘定が立ちませぬ。何か 別段の 御手入が ございますか。	アンシェー イヌムンドウヤルグトーヤビースィガ トウイヌ カワトーセーチャールワキ ヤヤビーガヤー。ワームノー ウフェー カワランドウン アレー サンミンヌ アタヤビラン。チャーガナ カワイイー テーイリヌ サーティガ ウウヤビーラ。
6	p.38 -39	左様でございます 田畑とも 肥は 勿論でございますが 播種(たまき)前後の 手入が 届きませぬと 肥も 用(もちい)た丈の 功(こう)がないものでございます。	アンデービル ターン ハタキン キューヤ イユニン ウユバビランスイガ サニ マチチュル アトウトウ メーヌ テーイリヌ トウドウカンドウン アレー クェーン ムチータルシンヌ ネーヤビラン。
7	p.39	私も 随分 念を入れますが どの様に 致したらば 宜しうござりましょう。	ワンニン ツイーブンニン イヤビースィガ マヅィ デーイチ ヤヤビーン。
8	p.39	成丈(なぢ)け深く 墾反(すきかえ)すが 先ず 第一でございます。	ナルタキ フカク ウチケーシュシガ ヤヤビーラ。
9	p.39	墾方を深くすると申せば 壤底(つちぞこ)まで 鋤反(すきかえ)すことで ございますか。	ウチュスイ フカク シュスイディ イユセー ンチャヌスクマディ ウチケーシュシガ ヤヤビーラ。
10	p.39	左様でございます。	アンデービル。

No	現代首里方言	備考欄
2	アンヤイビーサ イフェー ウフサガ アラ ワカイビラン。	
3	キューヤ ヌーンデー イリミシェービー ガ。	
4	ホシカ ツンマヌクスンデー *ムトウナチ チカトーイビーン。	*「ムトウニッシ」でもよい。
5	アンシエー イイヌムンドウ ヤル グトー イビーシガ トウイヌ カワトーシェー チャーラ ワキ ヤイビーガヤー。 ワームノー イフェー カワランドウン アレー サンミンヌ アタイビラン チャー ガナ ティーイリヌ *サーターウウビラ ニ。	*「サーティガ ウウイビーガヤー」、また は「サートーイビーガヤー」でもよい。
6	アンヤイビーン ターン ハルン クェ ーヤ ッユーニン ウユバビランシガ サニマチュル アトウトウ メーヌ ティー イリヌ トウドウカンドウンアレー クェー イッティン ヌーヌー ヤクン タチャビラン。	
7	ワンニン イッペー ニン イリヤビーシ ガ チャングトウッシ サラー ユタサイ ビーガヤー。	
8	ナルタキ フカク ウチケースシガ マジ デーイチ ヤイビーン。	
9	フカク ウチケースンディ ッユシエー ンーチャヌ スクマディ ウチケースル クトウドウ ヤイビールイ。	
10	アンヤイビーン。	

No	頁	本文(和文)	『沖繩対話』本文(沖縄語)
11	p.39	併し 私の考には 深く鋤たらば 下底(そこ)の 瘠土(やせつち)が 上面(うえ)に出て上面(うえ)の 肥(こえ)壤が 下底になり 却て 悪からんと 思いますが 其れは 構いませぬか。	ヤンドウン ワー カンゲーネー フカク ウチドウンセー スクヌ ナマツィ チュー ウインカイ ナイ ウイヌ クエーヌ スドール ンチャー シチャンカイ ナティ ケーテー ツイジドウ ヤイエーサニンディ ウマーリヤビースイ ガ ウレー カマーンガ アヤビーラ。
12	p.39 -40	御尤でござります 只今の話は 膏腴地(こえち)のことで 礮确地(やせち)では 決して よくござりませぬ。	グムツトウン デービル。ナマヌ ハナシエー クエーチヌ クトウドウ ヤル ハギチドウン ヤレー チツシティ ユタシユー ネーヤビラン。
13	p.40	左様なら 礮确た地では どの位 致したら 適度でござりますか。	アンシエー ハギトール チカタドウン ヤレー チヤヌ シャクドウンセー イーカギン ヤヤビーガ。
14	p.40	先ず上部(うえ)の肥壤丈けは残らず 墾反すことでござります。	マヅィ ウワービヌ クエーヌ スドール ウツサー スーヨー ウチケーチ ユタシャヤビーン。
15	p.40	左様に深く 鋤くが宜しきは 如何いう訳で ござります。	アンシ フカーク ウッチ ユタシャセー チャール ワキガ ヤヤビーラ。
16	p.40 -41	空気(くうき)を 通(かよ)せねば 肥も ききませぬものでござりまして 又地中に深く 間隙(すきま)がありますと 害毒物(わるき)を 洗て下層(した)に 流し込みますから 作物は 其害を 受けませぬ 其れ故 近頃 農業に 功者のひとは 五六年目には 二尺余も深く 墾反す様に 致します。	イーチ トーサンドウンアレクエー ン チチヤビランアイ マタヂーヌ ナカナカイフカクムイイジュヌアイドウ ンセーゲーニナユルムノーシチャン カイアレー ナガチイチュクトウ ムヅクイエー ウヌゲーヤ ウキラン アンシドウ チカグル ハルグーシャヌ グルクニンミネー ニシャーク アマイン フカク ウチケーシャビール。

No	現代首里方言	備考欄
11	ヤイベーシガ ワー カンゲートウツシエー フカク ウチードウンシエー スクヌ ナマ *シーチャヌ ツウィーンカイ ナヤーニ ツウィーヌ ケーヌスドール ンーチャー シチャンカイ ナティ ケーテー チジドウ ヤイエーサンンディ ウマーリヤビーシガ ウレー チャーヤイベーガヤー。	*仲里氏・新垣氏は「土」を「ンーチャ 」というが、国吉氏は「ンチャ」と短い。 「見る」も他では「ンージュン」だが、 国吉氏は「ンジュン」と「ン」を伸ばさ ずに発音するため、発音／N／の長 短は「地域差」であろう。以下、同じ。
12	グムツトウシ ヤイベーン ナマヌ ハナ シエー ケーギーヌ クトウドウ ヤイベー ル ハギジードウンヤイベーレー チッシ ティ ユタシコー ネーイビラン。	
13	アンシエー *ハギトール <u>チカター</u> チャヌ アタイドウンヤイベーレー イイー サク ヤイベーガ。	*「ハギジー」でもよい。「ハギモー」は畑 地ではなく、草木が植わっていない土地 の意になる。
14	マジ ッワービス ケーヌ スドール ウッサー ムル ウチケーチ ユタサイ ビーン。	
15	アンシ フカク ウッチ ユタサイビー シエー チャール ワキガ ヤイベーラ。	
16	イーチ トウーサンドウンアレー クエーン チチャビラン マタ ジーヌ ナーカンカ イ フカク ムイジュヌ アイドウンシエー ゲーナイルムノー シチャンカイ アレー ナガチ イチュクトウ ムジユクイエー ウヌ ゲーヤ ウキヤビラン * <u>アンヤテイドウ</u> チカグル ** <u>ムジユクイディキラスル</u> ッチ <u>ユヌチャーヤ</u> グルクニンミーネーニシヤ クアマイン フカク ウチケー サビール。	*「アンシドウ」でもよい。 **「ムジユクイヌ スグリムン ジョージ ヌチャーヤ」でもよい。

No	頁	本文(和文)	『沖繩対話』本文(沖繩語)
17	p.41	播種後の手入れとは 肥をやることで ござりますか。	サニ マチ アトゥス テーイリンディ イユセー ケー イーレル クトゥドウ ヤヤビーガヤー。
18	p.41	はい 肥をやることは 申すまでもありませぬが 都(すべ)て作物の根が 傷(いた)まぬ様に 石塊(かたまり)を除(の)け 又雑草(わるきさ)を 能く 取り除る事で ござります。	ウー ケー イーレル クー イユニ ン ウユバビラン スビティ ムヅクイヌ ニー イタミラン ヨーニ イシヌ グト ール ンチャムルシ トウイ ドウキタイ ヤナグサ ユー トウイムシタイ ムシ タイ シュルクトゥドウ ヤヤビー。ル。
19	p.41	私の作物は 近年収穫(とりだか)が 減少(へり)ましたが 如何の 訳で ござりましょう。	ワッター ムヅクイェー クヌグロウ ト ウイミヌ イキラク ナトービシースイガ チャー。ル ワキ デービルガヤー。
20	p.41	それは 土地が 瘠(や)せたので ありましょう。	ウレー チカタヌ ヤシテイドウ ウウラ ハヅィ デービル。
21	p.41	否へ 従前よりは 一層 肥を多く 用います。	アネー アラン メーヤカー イチダン ケーヤ ウフオークドウ ムチーユ ル。
22	p.42	それならば 当年より 地面を 換(かえ)て 御覧なされ。	アンドゥン ヤラー クンドウカラ シチ バ ケーティ ウミカキ ミシエービリ。
23	p.42	地面を換えるとは どうすること で ござります。	シチバ ケーユンディ イユセー チ ャーシュル クトゥガ ヤヤビー。ラ。
24	p.42	これまでの 麦畑(むぎばたけ)へは 蕃薯(からいも)を 植(う)え 蕃薯の所へは 甘蔗(さとうきび)を 植る様に 順繰(じゅんぐ)りに 換えて 作ることで ござります。	クリマディヌ ムヂバタキネー ンム ウイ ンム ウイテール トウクルネー ウウー。ジ ウイユル グトゥッシ クイ ーケッシ ツクユル イーブンドウ ヤ ヤビー。ル。

No	現代首里方言	備考欄
17	サニマチ アトヌ ティーイリンディ ツユシエー クェー イリール クトウドウ ヤイビーガヤー。	
18	ウー クェー イリール クトー ツューニ ン ウユバビランシガ ムジュクイヌ ニー ツンジュカサン ヨーイー イシヌ グトー ル ンーチャ * <u>ムルシ</u> トウイドウキタイ ヤナグサ トウイムシタイ スルクトウドウ ヤイビール。	*国吉氏は「ブク」という。
19	ワッター ムジュクイエー クヌグロー トウイミーヌ イキラクナトーイビーシガ チャー ル ワキ ヤイビーガヤー。	
20	ウレー チカタヌ ヤシテイドウ ウラ ハジ ヤイビーン。	
21	アネーアイビラン メーヤカー イチダン トウ クェーヤ ウフクドウ ムチーヤビール。	
22	アンドンヤイビールー クンドウカラー ジーケーティ ウミカキシエービレー。	
23	ジー ケーユンディ ツユシエー チャー スル クトウガ ヤイビーラ。	
24	クリマディヌ ムジバタキネー ツンム ツウイーティ ツンム ツウイーテール トウクルネー ウーージ ツウイーユルグトウ ツシ クイケーシ チュクイル イーブン ドウ ヤイビール。	

No	頁	本文(和文)	『沖縄対話』本文(沖縄語)
25	p.42	左様(そう)するのは 如何の訳で ござります。	アンシュセー チャール ワキガ ヤ ヤビーラ。
26	p.42	地中には 種々(いろいろ)の 肥料(こやし)を 含(ふくみ)て おりますか 穀類の 好もの と 根類の 好ものと 草類の 好ものとありますから 同じ 物を 永く作ると 自然其肥料 が なくなりますゆえ 換て 作るが 宜しうござります。	デーナカイエー イルイルヌ クエー フドースイガ ククルイヌ スイチョー スイガ アイ クサルイヌ スイチョース イガ アクトゥ イヌムン ナゲー ツ クイネー シヂンニ ウヌ クエーヌ ネーン ナユクトゥ カワチ シュキユ シガ マシ ヤヤビーン。

おわりにかえて

上に掲げた現代首里方言版『沖縄対話』は、沖縄県立芸術大学附属研究所で行っている研究会⁵によって得られた言語資料の一部である。この取り組みの目的は通時的な研究の基礎的な資料の作成に重点が置かれているが、将来的には言語継承の際に必要な文法書や教科書の例文などにも利用できると思われる。

133年前と現在の首里方言は共通点や相違点がそれぞれみられる。以下に明治期と現在の首里方言の共通点をいくつか示し、仲原他(2012:30)(2013:152-154)で言及していなかった相違点も挙げる。

1. 共通点

(1)ハ行子音/hw/の保持

「沖縄語」(沖縄中南部方言)のハ行子音イ段音やエ段音は、多くの地域で/hɪ//he/になるが、首里方言は現在も/hwi//hwe/を保持している。

例)

「カチヌハナ フィノー」〈垣花辺りは〉(第三回 農之部 第二回 No.7)

(2)ヤ行/ji//je/とワ行/wu/

日本語(共通語)ではヤ行「や・ゆ・よ」、ワ行「わ・を」以外の発音は中世から近世にかけて消滅し、共通語では「を」も「オ」と発音するので、さらに拍(モー

No	現代首里方言	備考欄
25	アンスシエー チャール ワキ ヤイベー ガ(ヤー)。	
26	ジーナカイエー イルイルヌ クェーヌ スングドーシガ ククルイヌ シチョーシガ アイ デークニンデーヌ シチョーシガ アイ ヤシエールイヌ シチョーシガ アクトゥ イヌムン *ナゲー チュクイ ネー シジンニ ウヌ クェーヌ ネーン ナイトゥ カワチ チュクユシガドウ マシ ヤイベール。	*国吉氏は「ナゲーン」という。

ラ)が減っている。明治期の『沖縄対話』も現代首里方言訳『沖縄対話』も見出しに示した発音を保っており、ヤ行の拍(モーラ)は/ja,ji,ju,je,jo/,ワ行の拍(モーラ)は/wa,wi,wu,we,wo/である。

(3)助詞/uti/ 〈～で〉 〈～に〉

日本語の助詞「～で」は「首里方言」では①道具・材料・手段を表す「～サーニ」、②場所を表す「～ウウティ」「～ウウトーティ」(「～ンジ」、③移動の方法を表す「～カラ」の3種類になる。以下の例文は日本語の文では「～に(は)」だが、首里方言では〈～で〉を表す助詞/uti/と〈～は〉を表す助詞/ja/が融合して/uteR/になるものである。

例)「チヌーヌ カジウウテー」〈昨日の風には〉(第三回 農之部 第二回 No.3)

2. 相違点

(1)疑問の係助詞「～ガ」の減少

明治期には多用される表現が、現代首里方言で減少しているものとして係助詞「～ガ」がある。文末の「ガ結び形」(～ラ語尾)と呼応して「疑問」を表すが、現代首里方言では係助詞「～ガ」を用いず、文末に疑問の終助詞「～ガ」または「～ガヤー」を用いるのが一般的である。

例)日本語文「葱は如何でござりますか。」(第三回 農之部 第二回、No.15)

明治「ビラー チャー^ガ ヤヤビーラ。」

現代「ビラー チャー ヤイビー^ガヤー。」

係助詞「～ガ」と文末の「～ラ」の構文は、「～でしょうかね～」のような表現であり、直接的な疑問文の「～ですか」よりも柔らかく上品な言い回しである。また、問いかけられた側が同意も否定も行い易いという利点がある。しかし、他方で聞き手によっては「まどろっこしい」と受け取られることもあるのが欠点である。80代以上の話者にとっては首里方言らしい表現だと感じるようであるが、70代以下の話者は積極的に使用していない。

(2)語彙

明治期の首里方言と現代首里方言では以下に示すように別の語彙を使用する例が多くみられる。ただし、明治期の首里方言の語彙が「ウドントウンチ」階級のことばの特徴である可能性も否定できないため、単純に通時的な変化として捉えるのではなく、位相の違いの可能性にも注意を払っておくべきであろう。ここでは「第三章 農之部」の各回から1語ずつ示す。

日本語	首里方言		回,番号
	明治	現代	
大豆	デーヅィ	トーフマーミ	第一回,No.13
名産	イーサンムツ	イーブッサン	第二回,No.19
損毛	スンジ	ウースン	第三回,No.6
随分	ヅィーブン	イッパー	第四回,No.7

注

- 『沖繩対話』は明治13(1880)年に沖繩県学務課によって編集された教科書である(上下2巻の分冊)。本永(1983:554)では本書の作成理由について「廃藩置県直後の沖繩で共通語を教えるため」としている。
- 「農之部」は、明治13年刊行の初版本『沖繩対話』では「第三章、明治15(1882)年の改正再版では「第四章」である(改正再版本では初版本で第八章であった「名詞之部」が第一章に編成されている)。本稿は初版本の目次の編成通り、「第三回」とする。なお、仲原他(2012)(2013)の表題や本文に示した「四季之部」は「四季之部」、「学校の部」は「学校之部」が正しい。

3. この首里方言に関して、本永(1983:554)は「内容は、ごく日常的な語句と会話文をとりあげて、共通語と方言(首里の貴族語)の対訳を並記したものである」との見解を示している。
4. 本稿の話者は、首里で生まれ育った仲里政子氏(1923年生)、新垣恒成氏(1932年生)、国吉朝政氏(1940年生)である。
5. この首里方言の研究会の名称は「首里言葉の集い」で、設立は1998年である。当時沖縄県立芸術大学美術工芸学部教授の加治工真市氏(現在は名誉教授)が「滅び行く首里方言を記録、保存しておきたい」という目的で創設した研究会である。中村春子氏や故比嘉恒明氏、新垣恒成氏らが初期メンバーであり、現在は仲里政子氏、渡名喜勝代氏、山田美枝子氏、国吉朝政氏、大道好子氏、知念ウシ氏、仲原など首里方言に関心のある人々が集い、毎週水曜日に研究会を開催している。

【参考文献】

- 沖縄県庁 編(1975[1980])『沖縄対話〔復刻版〕』国書刊行会 東京
- 伊豆山敦子[編](2006)『放送録音テープによる琉球・首里方言—服部四郎博士遺品—』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 東京
- 内間直仁・野原三義(2006)『沖縄語辞典—那覇方言を中心に—』研究社 東京
- 国立国語研究所[編](1963)『沖縄語辞典』大蔵省出版局 東京
- 糖業研究会出版部[編](1916)『琉球語便覧』糖業研究会出版部 沖縄
- 仲原穰・比嘉恒明・仲里政子・新垣恒成・国吉朝政(2012)「現代首里方言訳『沖縄対話』(1) —「第一章 四季の部」(春・夏)—」『沖縄芸術の科学』第24号 沖縄県立芸術大学附属研究所 沖縄 pp15-131
- 仲原穰・比嘉恒明・仲里政子・新垣恒成・国吉朝政(2013)「現代首里方言訳『沖縄対話』(2) —「第一章 四季の部」(秋・冬)—」「第二章 学校の部」『沖縄芸術の科学』第25号 沖縄県立芸術大学附属研究所 沖縄 pp113-154
- 中松竹雄(1982)「IV 沖縄県那覇市首里」国立国語研究所[編]『方言談話資料(6)—鳥取・愛媛・宮崎・沖縄—』国立国語研究所 東京
- 野原三義(1998[1977])「那覇方言研究の部」『新編 琉球方言助詞の研究』沖縄学研究所 東京 pp.713-773
- 西岡敏・仲原穰[著]、伊狩典子・中島由美[協力](2006[2000])『沖縄語の入門 CD付改訂版たのしいウチナーグチ』白水社 東京
- 比嘉成子(1987)「《資料紹介》首里方言自由会話 『旧正月と大海日の思い出』琉球方言研究クラブ30周年記念会[編]『琉球方言論叢』琉球方言論叢刊行委員会 沖縄 pp.73-91
- 本永守靖(1983)「『沖縄対話』おきなわたいわ」『沖縄大百科事典』沖縄タイムス社 沖縄 p.554

(なかはら じょう・なかざと まさこ・あらかき つねしげ・くによし ともまさ)